

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「言葉について考えよう」 教材名「関係に気をつけよう」

2 単元の目標

主語と述語、修飾と被修飾、指示語や接続語の働きを文や文章で理解できる。相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①主語と述語、修飾と被修飾、指示語や接続語の働きを文や文章で理解している。（〔知識及び技能〕(1)力）	①「書くこと」において、相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直している。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

主語と述語、修飾語と修飾される語、指示語が示す内容を確認、意図した意味に伝わる文章へ直す。何となく変だと感じて直すのではなく、語句どうしの関係を説明する。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)力を、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案ではB(1)エを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

教師作成の文で主語と述語を線で結び、修飾する関係は矢印にする。指示語を実際の語に置き換えて意味を確認する。その後は児童自身の文章で同じ方法を使い、必要な箇所だけ直す。おおむね満足できる状況は、相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教師作成の文を読み、主語・述語や修飾の関係による意味の違いを確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○指示語が何を示すか、接続語が文をどう結ぶかを確かめる。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本時）	○自分の文章を読み合い、別の意味にも受け取れる所を関係図で確かめて直す。	思①（発言・学習記録）
第3次	4	○直した文と理由を紹介し、今後の作文で使う点検方法をまとめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (3/4)

(1) 本時の目標

相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直せる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この言葉は、どの言葉と関係していますか。読み手が別の意味に受け取らないように、どこを直しますか」 【めあて】主語と述語、修飾語と修飾される語、指示語が示す内容を確認、意図した意味に伝わる文章へ直す。 〈予想される児童の反応〉 ・主語と述語を順に読むと合っていないと気付く。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この言葉は、どの言葉と関係していますか。読み手が別の意味に受け取らないように、どこを直しますか」 自分の文章の主語と述語、修飾する語句、指示語が指す内容に対応させる。意図した意味と異なって読める箇所を選び、語句の順序や接続を変えて書き直す。友達に修正前後を読んでもらい、意味が明確になったか確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・主語と述語を順に読むと合っていないと気付く。 ・修飾する言葉を近付けると意味がはっきりする。 ・これが何を示すか書かないと迷う。	教師作成の文で主語と述語を線で結び、修飾する関係は矢印にする。指示語を実際の語に置き換えて意味を確認する。その後は児童自身の文章で同じ方法を使い、必要な箇所だけ直す。 想定する難しさ：短文では正しても文章の中で主語が変わると見落とす。指示語を全て消すことが改善だと思う。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直している。(語句の対応を書き込んだ文章・修正前後の文)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・これが何を示すか書かないと迷う。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この言葉は、どの言葉と関係していますか。読み手が別の意味に受け取らないように、どこを直しますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

